経営探訪 Management Report

第一電材エレクトロニクス株式会社

成長著しいエレクトロニクス業界 優れた技術力で存在感を放つ

日本が世界に誇れる「モノづくり」
優秀な職人の力を武器に
強いニッポンの再建を秋田から。

秋田市河辺の七曲工業団地に昨年12月に新工場を竣工した「第一電材エレクトロニクス」は電線ケーブルの加工・製造を行っている。母体である「第一電材」は電線ケーブルの専門商社であり、メーカーとしての顔も持つ。工場は国内に８箇所、海外に１箇所と点在しているが、4月に「第一電材エレクトロニクス」として一本化し、秋田に本社機能を移転する予定だ。梅澤拓也代表に経緯と今後について伺った。

デジタルシフトが進み 業界の需要が増大

第一電材株式会社は昭和43年に東京都三鷹市にて創業した電線・ケーブルの専門商社だ。令和３年に「秋田エレクトロニクス株式会社」をM&Aで取得し、翌年には現在の社名「第一電材エレクトロニクス」に変更。そして昨年末、秋田市河辺の七曲工業団地に新社屋を設立、移転した。ここでは、第一電材株式会社のグループ会社として、さまざまな電線の加工を行っている。電線といわれると電信柱に架かっているケーブルを想像するが、加工を行っているのは主に産業用電子機器（工場や医療現場で使われている大型の機械）の中に使われているものだ。

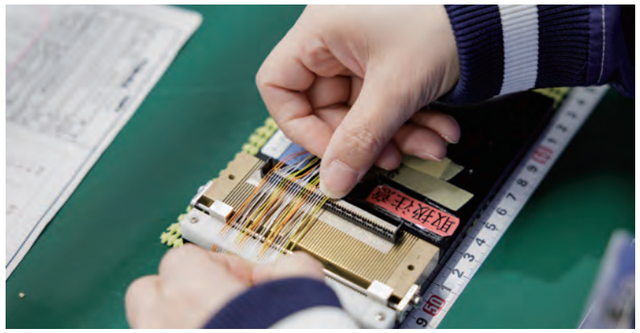
「顧客の要望に合わせて機械と接続するためのコネクタを付けたり、適切な長さに加工したりする。これらは機械ではなく、一つ一つのオーダーに合わせて手作業で行います。コロナ禍でリモートワークが進み、会議や面接もオンラインで行われるようになったことで、業界で需要が膨らみました」と、梅澤拓也代表は振り返る。

強靭なサプライチェーンを 目指すための経営統合

現在、第一電材株式会社のグループ会社は全国に秋田を含めて８カ所あるが、４月からはすべて「第一電材エレクトロニクス」として統合し、秋田に本社機能を持たせることになっている。

「我々が作る製品は、人の手が必要なアナログなモノづくりに支えられています。だからこそ、需要が増えると対応が難しい。そこで、経営統合して８つある工場をひとつにしようという構想ができました。これまでは緩やかな連携だったが、協力体制を強固なものにできる。強靭なサプライチェーンを目指し、改善していこうと考えました」。

本社機能を秋田に持たせることにしたのは、県の企業誘致の熱心さがきっかけだった。特に本社機能移転に対するフォローが手厚いことが決め手のひとつになった。



短納期を求められることもしばしば。丁寧かつスピーディーに作業を進行。女性スタッフが多いのも特徴のひとつ。

昨年末、12月に竣工したばかりの新社屋兼工場。
第三期工事まで見越した、拡張可能な設計となっている。

「ここを本社にすることで、地元の雇用も生み出せる。空港も近く、アクセスが良いこともあり、秋田に移転することを決めました。本社にふさわしい新社屋が竣工できたと思っています」。

日本が誇るべき「モノづくり」 地方から日本を元気に

４月の統合以降、従業員は全国で300名ほどになる見込みだ。秋田では今後、新規採用を行う予定という。

「地方では少子高齢化が深刻で、衰退していく話題ばかりです。一方で半導体産業は今後成長が見込める分野で、エレクトロニクス業界もそこに関係しています。衰退すると言われている地方から、日本を元気にしていかなければと思っています。収益のあがる職場を地方に作り、雇用を生み出し、強い日本を再び取り戻したい。日本が誇るべきモノづくりの精神を大切に、信頼される製品を作っていきたいと考えています」。

今回の本社機能移転は、梅澤代表の熱い思いを実現する第一歩。日本再生の一端を担う企業が、秋田に誕生した。

第一電材エレクトロニクス 株式会社
代表取締役　梅澤 拓也

〒019-2611
秋田市河辺戸島字七曲台120-102
TEL.018-853-4955　FAX.018-853-4956
https://didele.co.jp/

◎業務内容　電線・ケーブルの加工